受け忘れはありませんか?予防接種

怖い感染症を防ぎ、子どもが健康に育つための「予防接種」。乳幼児期にはちゃんと確認していても、小学生以上になるとつい忘れがちに。
この機会に、予防接種の意義やお子さんの予防接種が順調にすすんでいるか、確認してみましょう。

免疫はお母さんから赤ちゃんへ最初のプレゼント

赤ちゃんは、胎児の時に胎盤を通じて病原体に対する免疫をもらい、生まれた後は母乳から免疫をもらいます。

これを「母子免疫」といいます。

お母さんが赤ちゃんにプレゼントした病気に対する抵抗力（免疫）は、成長とともに失われるため、予防接種を受けて赤ちゃん自身で免疫をつくり、病気を予防する必要があります。

母子手帳・予防接種手帳は大切に保管を

母子手帳はお子さんの接種歴を確認する大切なものです。最近では、進学や就職の際に予防接種歴の提示を求められるケースも増えてきました。お子さんが成人になるまでは大切に保管しましょう。

予防接種手帳（各種予診票）は新生児訪問の際に配布をしており、7歳半までに接種する予防接種の予診票がつづられています。予防接種が終わるまで大切に保管しましょう。

もし予防接種予診票を紛失したら

住民課健康づくり班で、母子手帳を確認のうえ再発行を行っていますので、ご連絡ください。

ご不明な点がありましたら

予防接種スケジュールを立てていても、病気や体調不良等の理由で受けられなかった、忘れていたというケースがよくあります。

もし接種する順番等分からなくなったら、かかりつけの病院または役場へご相談ください。

予防接種を受けるときには確認を

医療機関に行く際は母子手帳・予診票・保険証を持って保護者が同伴しましょう

母子手帳は必ず医療機関に持って行き、記入してもらいましょう。予診票を忘れると予防接種を受けることができませんので、必ず持参してください。

なお、予防接種は原則、保護者の同伴が必要です。保護者の行ける日に接種するようにしましょう。

0歳から1歳のお子さん

BCG

結核は抵抗力の弱い赤ちゃんがかかると結核性髄膜炎になることもある怖い病気です。

生後3か月を過ぎたら忘れず受けましょう。**公費（無料）で接種できる年齢は生後6か月未満の間だけなので、受け忘れがないように注意しましょう。**

三種混合1期

20日から56日の間隔で3回接種しますので、お子さんの体調をみて受けましょう。

百日ぜき

治療が遅れるとせきがひどくなり、長期間続きます。お母さんからもらった免疫がすぐ切れるので、生後間もなくの赤ちゃんもかかることがあります。赤ちゃんがかかると呼吸困難に陥ることもあります。

破傷風

土中にいる破傷風菌が傷口から侵入することで起こります。ケイレンなどの神経症状が出る、死亡率の高い病気です。

東南アジアではまだ多いのですが、破傷風菌は日本の土中にもいるので、いつでも起こる可能性があります。

ジフテリア

高熱、のどの痛み、せきなどが起こり、のどの炎症のために呼吸困難に陥ることもあります。神経マヒ、心筋炎などを併発することもあります。

平成22年度に6歳・13歳・18歳になる方は、麻しん（はしか）の予防接種を受けましょう

ポリオ

ポリオウイルスの感染により発熱や嘔吐、マヒなどが起こる病気で、重症の場合は後遺症としてマヒが残ったり、死亡することもあります。日本ではほとんど発生していませんが、中国や東南アジアなど日本の近隣諸国ではいまだに流行しています。

大豊町では、年2回ポリオの集団予防接種を実施しています。次回は10月28日（木）10時からふれあいセンターで実施します。

1歳になったお子さん

麻しん風しん1期

麻しん

麻しんウイルスによる感染症です。

発熱及びかぜ症状が2～4日続き、その後高熱とともに発疹が出現します。肺炎、脳炎といった重い合併症を発症することもあります。

風しん

風しんウイルスによる感染症です。

発疹、発熱、リンパ節の腫れが主な症状です。

1歳になったらすぐ受けるようにしましょう。

三種混合1期追加

1期の3回目接種後1年たったら接種の時期です。基礎免疫をしっかりつけるため、忘れずに接種しましょう。

3歳になったお子さん

日本脳炎1期（初回・追加）

日本脳炎ウイルスの感染によって起こる中枢神経（脳や脊髄など）の病気です。感染後、症状が現れずに経過する場合がほとんどですが、症状が出る場合は、数日間の高熱、頭痛、嘔吐などで発症し、光への過敏症、意識障害、けいれん等の脳の障害を生じます。

初回＝6日から28日の間隔で2回接種します。追加＝2回接種後1年たったら追加で1回接種します。

来春から小学校へ入学するお子さん、中学1年生、高校3年生相当のお子さん

麻しん風しん2期、3期、4期

1期の接種で免疫が十分につかなかったり、時間の経過とともに免疫が減衰したお子さんに再び接種することにより、免疫を強固なものにします。

※3期、4期の実施期間は、平成24年度までとなっています。

11歳から12歳のお子さん

二種混合

三種混合予防接種の効果が下がり始めるこの時期に、さらに免疫をしっかりつけるための予防接種です。

11歳になったらすぐに受けるようにしましょう。

4歳から7歳未満のお子さん

おたふくかぜ・みずぼうそうワクチン予防接種費用の助成

任意予防接種費用の助成

平成22年度から、次の任意予防接種に対して、接種費用の助成を始めました。ただし、町内医療機関で接種した場合に限ります。予防接種を希望される方はご活用ください。

おたふくかぜ

ムンプスウイルスによる感染症です。

耳下腺の腫脹、疼痛、発熱を主症状とし、発症しても通常は1～2週間で軽快しますが、無菌性髄膜炎をはじめ、髄膜脳炎、難聴、睾丸炎、卵巣炎、膵炎等の種々の合併症を起こす場合があります。

みずぼうそう

水痘―帯状疱疹ウイルスが原因で起こる疾患で、もっとも伝染力の強い感染性の一つです。かゆみを伴う発疹と発熱が主症状で、一般に軽症疾患ですが、合併症としてまれに脳炎などがみられます。

※おたふくかぜ、みずぼうそうとも に、感染経路は飛沫感染、接触感染であり、特に保育施設等で集団発生が認められています。

【助成対象者】
（次の項目にすべて該当する方です。）
①大豊町の住民である方
②4歳以上7歳未満の小児
③おたふくかぜ・みずぼうそう予防接種を受けたことがない方
④おたふくかぜ・みずぼうそうにかかったことのない方

【助成額】
予防接種費用全額を助成します。
自己負担はありません。
※助成回数は1人1回のみです。

【接種方法】
①各種予防接種を希望する方は、**町内医療機関**に予約をしてください。
②予約日に**母子手帳**と**お子さんの保険証、乳幼児医療費受給者証**をご持参ください。

問い合わせ先…住民課健康づくり班
☎⑨72―0450

夏休み期間を利用して、予防接種を受けるようにしましょう